



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社における第16期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

第16期の総括をお願いします。

第16期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)は、新型コロナウイルス感染症や半導体不足による生産台数の下振れは回復傾向にあったものの、ロシア・ウクライナ情勢等により、原材料及びエネルギー価格が高い水準で推移し、当社の事業活動にも大きく影響を及ぼしました。しかしながら、前期比で主要顧客の生産台数の増加や、販路拡大による売上の増加等により増収で着地し、利益につきましても、米国新工場の2直化のタイミング遅れによる費用負担増はあったものの、増収影響及びあらゆる経費の削減と徹底したコスト改善活動の実施により、すべての経営指標で増益となりました。また、2022年11月14日に公表した業績予想比では、売上高、利益とも、原材料・エネルギー費高騰分の価格への転嫁や、顧客の車種構成の変化等により業績予想を上回る結果となりました。

第16期の取組みとしましては、各領域において下記の活動を行っています。

研究開発領域

- 内装・外装部品でのリサイクル技術の開発
- 内装部品における自動車内の快適性向上
- 熱マネジメント技術の開発
- 樹脂と電装の融合による先進的な操作デバイスの開発

ものづくり領域

- 本社工場における全自動ラインのノウハウの水平展開活動の推進

商品領域

- インストルメントパネルの新しい価値の追求
- 次世代光透過表皮の技術開発
- 電動車にも対応可能なバスバーの量産等の推進

経営基盤領域

- 新型コロナウイルス感染防止策の一環として、テレワーク勤務やWEB会議等の活用
- 女性活躍推進制度拡充プロジェクトによる、制度の見直し等の働き方改革の実施

今後もEV化への対応を深化させ、多様性を意識した活動を推し進めてまいります。

中期経営計画における最終年度が始まりました。第17期の見通しについてお聞かせください。

2020年11月5日に公表した中期経営計画では、売上高1,500億円、売上高営業利益率9%以上を経営目標としていました。売上高は新規部品の受注や製品構成の変化等により目標達成に向け順調に推移しています。営業利益につきましては、中期経営計画立案時の想定と比べて生産台数の減少やエネルギー費の高騰等、経営環境が異なっており厳しい状況です。しかしながら、CSR経営の強化や人的資本への投資は持続的成長を目指す上で必要不可欠であり、今ここで立ち止まるわけにはいきません。将来を見据えた投資は継続しつつも、最適生産の

追求と業務効率の改善を行い、売上高営業利益率5%の確保を目標として事業経営を進めてまいります。

株主の皆さまにメッセージをお願いします。

昨年9月に発行した「DNCLレポート」でも述べましたが、当社はこれまで技術力や開発力を磨き高め、品質にこだわり、愚直に「ものづくり」に取り組んできました。当社が「ものづくり」から向かうは「ひとづくり」です。次世代に活躍する人材を育成すべく、教育に注力しています。「技術塾」、「ものづくり伝承塾」、「振り返り伝承塾」といった世代や組織を超えた「共育」活動や、チャレンジ精神を尊重し後押しする「若手海外チャレンジ研修制度」等多様な学びの場を整備し、柔軟な思考と力強い推進力を持つ人材の育成にひときわ力を入れています。

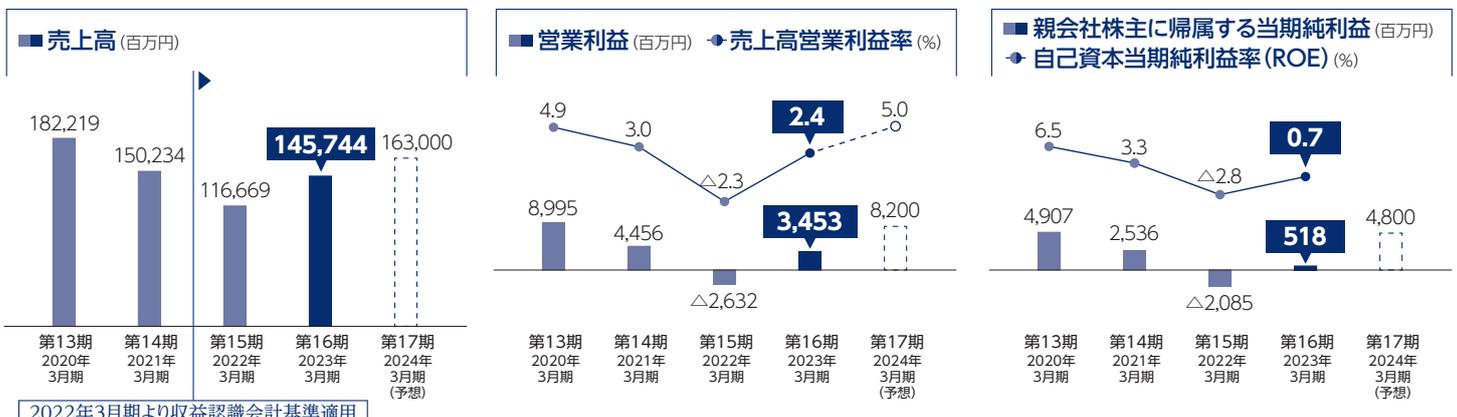
当社は、一人ひとりの人材の価値を最大限に引き出すことで、永続的に発展する企業、未来の社会を創り支える企業を目指します。10年後、20年後、そして100年後を思い描いて、着実に成長を続けながら歩を進めておりますので、引き続き倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

内田 成明

連結財務ハイライト



ポイント解説

- 世界的な半導体不足の影響等はあったものの、顧客生産台数が回復傾向になったことと、原材料・エネルギー費高騰分の価格への転嫁等により増収となりました。
- 利益については、顧客の2直化のタイミング遅れによる米国新工場の費用負担と、全拠点における原材料・エネルギー価格の高騰はあったものの、増収影響、あらゆる経費の削減とコスト改善活動実施により、すべての経営指標で増益となりました。

「ものづくり」から向かうは「ひとづくり」



社外役員を招き、女性活躍推進制度拡充プロジェクトで勉強会を開催



プラスチック成形など業務の専門知識を先輩から伝授



技術の習得のみならず、問題解決力や業務をトータルで見る目を養う

当社は創業以来あらゆるものの樹脂化の先駆者を目指し、ひたむきに「ものづくり」に打ち込んできました。そして、その「ものづくり」を支えるのは、他ならぬ「ひと」です。「ひと」なくして「ものづくり」は成り立ちません。一人ひとりが持つ力を存分に発揮することで、企業は成長するのです。

従前より人材育成に注力してきましたものの、「ものづくり」の知識や技能面の伝承だけでなく、柔軟な思考でより積極的に開発にチャレンジできる人材、高いコミュニケーション能力と語学力を身につけたグローバルで活躍できる人材、力強い推進力で渦の中心となって引っ張っていける人材を育てるべく、様々な取組みを進めています。

入社時にはキャリアプランを形成し、目的と将来自走していくためにどのように育っていくかを明確にし、上司とのミーティングでは本人への期待を伝えて自身の将来像を描けるようサポートを行っています。また、リーダーシップ醸成のためのOJT訓練をはじめ多彩なプログラムを用意し、学べる環境も整えています。

一朝一夕にはいきませんが、優秀な人材の輩出に向け、当社は「ひとづくり」を加速してまいります。



Q&Aで解説

教えて! Keyword

「若手海外チャレンジ研修」とは



Q1 若手海外チャレンジ研修制度について教えてください

将来の当社を担っていく熱意・意欲のある社員に対し、語学力の向上を図るとともに、グローバルマインドを身につけ、国際的に活躍できる人材を育てることを目的に、2017年にスタートした研修制度です。

Q2 カリキュラムについて教えてください

3か月前からオンライン英会話レッスンや過去研修生との座談会等の事前準備を始め、カナダの語学学校での4か月間の語学研修を経て、約半年間海外関係会社で業務研修を行います。

Q3 「若手」は何歳までを対象としているのですか

一般社員のうち、自律的に業務を遂行できる等級以上、かつ応募時点で35歳以下(条件に応じて例外あり)を対象としています。

Q4 これまでの研修修了者は何人ですか

新型コロナウイルス感染症の影響で2年間中断があったため修了者はまだ5名ですが、2022年より再開され現在2名が研修中です。

Q5 研修中はどのように評価を行うのですか

レポートの提出と定期的に人事担当者との面談を行っています。目標を設定し、達成度を確認して評価を行っています。

1 2 3 4 カナダ・ロンドンにある語学学校での研修風景。休暇を利用し、ナイアガラの滝に観光へ。

5 6 メキシコの関係会社でリアルなビジネス体験を通じて、グローバルマインドを身につけます。



百聞は一見に如かず、百考は一行に如かず

～研修をとおして得られたこと、そして今後の目標～

若手海外チャレンジ研修制度でカナダでの語学研修を終えたばかりの2名と、2019年度の研修修了者1名のレポートを紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



せっかくの機会を大いに活かし、やれることは積極的にすべてチャレンジしました



大学時代から海外留学に興味があり、「いつかチャンスがあれば」とは思っていたもののなかなか踏み切れずにいたところに、若手海外チャレンジ研修制度を知り「挑戦できるときに挑戦しておこう」と決心して応募しました。渡航前は英語の勉強はもちろんですが、日本が海外にアピールできる文化や歴史、産業なども復習してから研修に臨みました。

ものづくりでは「三現主義」の考え方を重んじますが、カナダで初めてマイナス15℃という極寒を体感し、「身を以て知るとはまさにこのこと」と現場の重要性を再認識できました。町には電気自動車が多く走っている印象で、充電ステーションもよく見かけ、日本よりEVシフトの波が広がっていることを肌で感じました。

語学学校のクラスメイト達は多国籍で、各国で考え方やスタンスの違いがあることに気付かされました。コミュニケーションに苦労することもありましたが、拙い英語であっても伝えようとする意志が最も大切なのだということも学びました。

トロントへの旅行や、年越しカウントダウンの参加、教会に行ったこと等すべての体験がかけがえのない思い出です。

この研修で学んだことや経験したことを人生の糧とし、将来は世界中で活躍できる人材、そして幅広い知識と多角的な視点でアドバイスができる管理職になることが目標です。



高橋 勇翔
(2018年入社)

「目を向けよう」「知ろう」としないことが誰かを傷つけることもあると学びました



2022年の年末に渡航し、4か月間のカナダでの語学研修を終えました。応募のきっかけは上司からの紹介で、ずっと自身の語学力に満足できていなかったのが躊躇なく応募を決めました。5年前にニュージーランドに旅行した際に現地ツアーで一緒だったカナダ人と親しくなって以来、カナダには100点満点の

好印象しかなかったのですが、現地で生活する中で、例えば医療費が無料でも待機期間が長かったりといった現実があり、暮らして初めてわかることもあったと知りました。

カナダは多文化の国なので、中南米、中東、アジア各国の方々との出会いもありました。滞在中にトルコ・シリアでの大地震があったのですが、報道されるのはトルコのことばかりで、シリアやアゼルバイジャンの被害についての情報がないことをシリア人の友人は嘆いていました。私は元来自身のことを差別をするような人間ではないと思っていましたが、「目を向けようとしていないから知らない」ことが多くあることに気づき、無関心が人を

傷つけることもあるのだと知りました。今後は見えないところに存在する差別について解決策を考え、多様な人の内なる声を見つけていきたいです。

自身の視野や考え方が広がったことは、海外での研修の成果の一つです。これからもたくさんの人々との出会いから多くのことを学んでいきたいと思っています。



鹿島 香代
(2015年入社)

研修修了者コメント

研修での体験を活かしつつ、ダイバーシティ実現に向け職場改善を進めています



全力で日々の業務に打ち込んでいたものの、同一の狭い範囲に長期間滞留したままでは成長は望めないと感じていた中、研修の募集を目にして応募を即断即決しました。2019年8月にカナダに渡航し、4か月間の語学研修を経て、2020年1月からはメキシコの関係会社での1年間の実務研修を行い、生産管理と品質管理業務に携わりました。

カナダでの語学研修中は、ホストマザーたちが寝た後リビングで課せられた宿題に奮戦することも多く、容赦なく大量の課題を出され

る先生を恨めしく思ったこともありましたが、頑張った甲斐あって基準スコアを達成することができました。放課後には英会話サークルに参加するなどして、最初は聞き取れなかった会話がわかるようになり、掲げていた「英語で話すことへの抵抗をなくす」という目標もクリアしました。モントリオールの友人宅まで列車で旅をしたり、ホストファミリーとナイアガラの滝へ行ったり、ハロウィンには仮装しての授業、サンクスギビングデーの七面鳥など、海外ならではの経験が数多くできました。

メキシコでの実務研修では、日本とは違う仕事への取り組み方にカルチャーショックを受けました。仕事よりも家庭を優先する風土で、残業を断って帰る人も多かったですし、長期間休暇を取る社員がいても仕事には支障が出ないローテーションができています。また、女性が多く活躍している姿が印象的でした。コロナ

禍で生産がストップした間スペイン語を勉強し、英語が話せないスタッフともコミュニケーションが取れるようになり、交流範囲が広がりました。思いを伝えるには意思の疎通は不可欠で、信頼関係を築かなければ、業務の改善やリーダーの育成もできないこと、また多様性を受け入れる重要性も学びました。

現在は、研修で培ったコミュニケーション力を活かして、明るく積極的に声掛けをして、風通しの良い皆で協力し合える職場環境づくりに努めています。



西山 愛子
(2002年入社)

CHANCE to CHANGE

樹脂で未来を創る

2023年5月24日(水)～5月26日(金)の3日間、パシフィコ横浜にて「人とくるまのテクノロジー展2023 YOKOHAMA」が開催されました。当社は「CHANCE to CHANGE 樹脂で未来を創る」をテーマに、サーキュラーエコノミーを具現化したフロントエンドコンセプトモデルや、次世代インテリアコンセプトモデル等、最先端の研究成果を披露しました。

スタッフも今年は「当社の未来を創る」若手中心のチームが求心力となって、展示会の準備から当日の運営まで対応しました。

私たちが考える新しい価値を、一人でも多くの方に共感、体感していただけるよう奮闘

説明員は初めて経験しました。会社の看板を背負ってアピールする場に立てて光栄です。一人でも多くの方に私たちの考える新しい価値を共感して体感していただけるよう奮闘しました。短期間でモデル製作を行わねばならず、スケジュール管理が大変でしたが、コミュニケーションを取りながらお互いの理解を深め、たくさんの人の協力で完成させることができました。自分の感性を大切にしつつ技術的な勉強を重ねて、「あなたにデザインをお願いしたい」と指名していただけるプロダクトデザイナーを目指します。

デザイン開発Gr
中井 暁未花



積極的なアピールを心がけ、お客様の反応を直に感じられる貴重な体験でした

2回目の参加です。スタッフには立候補しました。開発に携わった部品/技術を自ら発信でき、反応を直に感じられる機会は貴重です。展示品の成形には苦労しましたが、他部署の協力もあり乗り越えることができました。引き合いをいただけることを目標に、先輩からのアドバイスでもある「積極的なアピール」を心がけました。機会を大切にし、経験を積んで成長し続けたいです。ニーズを早期にキャッチし、お客様に喜ばれる製品/技術の開発を継続していきます。

機能部品開発Gr
重田 裕人



当日は現地の雰囲気を感じ、来場者のニーズを掴むことに注力しました

初めての参加で「私に務まるだろうか」と不安でしたが、周囲の方を頼って、理解できていないところの洗い出しを行い、問答集を作成して臨みました。当日は現地の雰囲気を感じ、体験することに重きを置きつつ、来場者のニーズを掴むことに注力しました。スタッフ間の縦や横の繋がりができたことは大きな収穫です。外装開発に関するあらゆる技術・知識を網羅した技術者になることが目標です。

外装開発Gr
松田 愛枝



部署を越えた横断チームで理想のイメージを形に。難しくもやりがいのある経験でした

初参加で不安もありましたが、疑問点・懸念点は事前に徹底的に質問して解消しておいたので、自信を持って当日を迎えることができました。部署を越えた横断チームでアイデアや意見を出し合いながら理想のイメージを形にしていける作業は、難しくもやりがいがありました。話し合いの大切さを実感したので、今後もしっかりとコミュニケーションを取って、期待に応えられるよう努力を重ねていきたいと思えます。

材料開発Gr
山根 涼太



安心してチャレンジできたのは、周囲のサポート、部門間の連携があつてこそ

初めてでわからないことだらけでしたが、上司の手厚く心強い全面サポートのおかげで、安心してチャレンジできました。ブースデザインの選定から展示品の準備、説明文の作成等で部門間の連携の大切さを実感しました。来年以降を見据え、業務の効率化を進め、完成度を高めたいと思います。また、語学力を活かしてグローバル人材になれるよう努めます。

統括管理Gr
韓 聡慧



人とくるまのテクノロジー展2023 YOKOHAMA

会期中3日間で延べ63,810名が来場され、当社のブースにもたくさんの方々にお立ち寄りいただきました。



TOPICS テクニカル試験センター移転と拠点名称変更 ～広島地区再編プロジェクト完了～

当社は、テクニカル試験センター(広島市安佐北区)の機能を、効率的な事業運営を進めることを目的とした広島地区再編プロジェクトの一環として、本社(東広島市)のテクニカル棟に移転/集約いたしました。開発スピードや実験精度のさらなる向上

を目指し、環境の改善と業務の効率化を推進してまいります。

また、これまでのテクニカル試験センターは、生産の一部を担う拠点として三入工場に名称を変更し、有効活用いたします。

開発が
よりスピーディーに!

新任役員のご紹介 (2023年6月22日選任)

当社グループの持続的成長と企業価値向上を目指すべく、2023年6月22日開催の「第16回定時株主総会」にて新任役員6名が承認され、取締役11名(うち、社外取締役5名)監査役3名(うち、社外監査役2名)の新体制がスタートしました。

代表取締役副社長 戸井 秀樹

環境変化や様々な経営課題に真摯に取り組み、当グループの企業価値向上に努めてまいります。



取締役専務執行役員 川上 博之

未来志向で追求し「愚直に、地道に、徹底的に」尽力してまいります。



取締役専務執行役員 石田 裕

何事もひとつずつ真摯に取り組み持続的な成長に向けて精一杯努力してまいります。



社外取締役 松本 俊彦

誠実かつ信念をもって任にあたり、企業価値向上に貢献できるよう努力してまいります。



社外取締役 小林 宏明

業界は異なりますが、製造業に携わる者として企業価値の向上に努めていく所存です。



常勤監査役 庄司 幸雄

原点に立ち返り「初心忘れるべからず」で日々努力精進してまいります。



詳細は当社のホームページに掲載されている「IR情報」をご覧ください。

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/ir/>

こちらのQRコードからもアクセス!

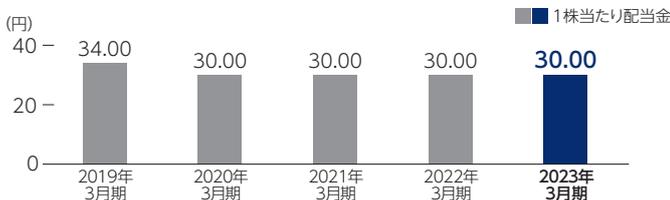


QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

株主還元の基本方針

当社の配当政策は、株主の皆さまに対して安定的・継続的な配当を行うことを基本とし、業績、配当性などを総合的に勘案して実施することとしております。

● 1株当たり配当金・配当性向



配当性向

| 年次 | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 2023年3月期 |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 配当性向 | 23.2% | 43.3% | 83.9% | — | 411.2% |

ホームページリニューアルのお知らせ

当社は、2023年5月にホームページを大幅にリニューアルいたしました。より見やすく、より快適にご利用いただけるホームページを目指し、デザインや構成を一新し、スマートフォンやタブレットでの表示にも対応しております。

また当社のIR情報の更新をお知らせするIRメールマガジンを始めましたので、ぜひご登録ください。

リニューアルに伴いURLが変更になっておりますので、「お気に入り登録」をされている場合は、恐れ入りますが登録変更をお願いいたします。



<https://www.daikyonishikawa.co.jp/>



● 株主メモ

| | |
|------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎事業年度終了後3ヵ月以内 |
| 剰余金の配当の基準日 | 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 |
| 同事務取扱場所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777(平日9:00 ~ 17:00) |
| 同取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国支店 |
| 電子公告 | https://www.daikyonishikawa.co.jp/ 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 |

● 会社概要

(2023年3月31日現在)

| | |
|------|-------------------|
| 社名 | ダイキョーニシカワ株式会社 |
| 本社 | 広島県東広島市寺家産業団地5番1号 |
| 設立 | 2007年4月1日 |
| 資本金 | 54億2,665万3,900円 |
| 従業員数 | 5,461名(連結) |

表紙について

若手海外チャレンジ研修

カナダの語学研修では、英語によるプレゼンテーションや、演劇の台本作成と上演といったワークもカリキュラムに組み込まれており、語学力のみならず、自己表現力やコミュニケーション力なども養われます。



ダイキョーニシカワ株式会社
TEL: 082-493-5610

